

江波山気象館被爆関連資料について①

原爆と気象台

広島市江波山気象館の本館は、昭和62年（1987年）まで江波山にあった旧広島地方気象台の建物を保存整備したものです。昭和20年8月6日に広島に投下された原子爆弾によって、建物や観測機器の破損や職員の負傷など、多くの被害を受けました。現在でも、気象館の建物には、当時の様子を伝える傷跡が残されています。



被爆保存壁（北側外壁）
爆心地からの距離は南南西に約3.7km。爆風を受けた外壁は当時のまま保存されています。窓枠は、爆風の勢いで湾曲しています。



曲がった窓枠
2階展示室、気象台の思い出にも、曲がった窓枠が残されています。当時の職員によって補修され、現在でも使われています。



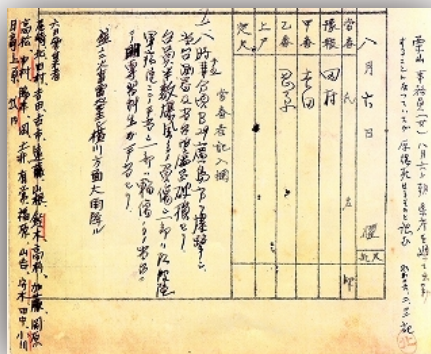
壁に刺さったガラス片
気象台の思い出には、爆風に吹き飛ばされたガラス片が、壁に刺さったまま残されています。爆風の風速は秒速700mと推定されています。

昭和20年8月6日

気象観測の資料や気象台の日記、後に行われた原子爆弾被害調査資料などから、原子爆弾が投下された当時の様子を知ることができます。



カンペル日照計の記録紙（複製）
8月6日の日照計の記録紙には、午前8時15分頃と午後3時前に日照が記録されていない部分があります。このことは、雲や煙が空を覆い、太陽の光をさえぎったことを示しています。



気象台の当番日誌

「8時15分頃B29広島市を爆撃し、当台測器及当台付属品破損せり、台員の半数爆風のため負傷し江波陸軍病院にて手当し、一部は軽傷のため、当台にて専修科生が手当てせり。盛んに火事雷発生し横川方面大雨降る」と、原爆投下直後の気象台の様子が詳細に記されています。



●カンペル日照計

中央のガラス球に太陽の光が当たると、ガラス球がレンズの役割をして、ガラス球の後ろに置いた記録紙に焦げあとを残します。記録紙には時間の目盛りがあり、これにより、日照時間を知ることができます。

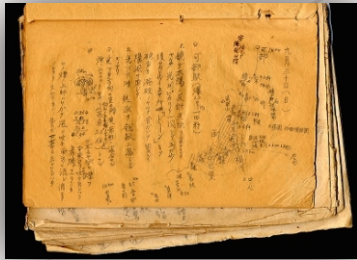
原子爆弾の爆発の様子の図
気象台職員による原子爆弾被害調査で、明らかにされた原子爆弾の爆発の様子が克明に記されています。



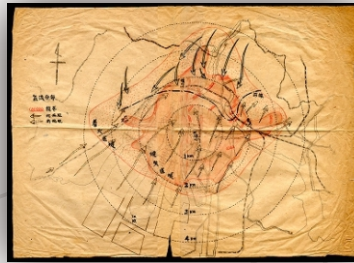
江波山気象館被爆関連資料について②

原子爆弾被害調査

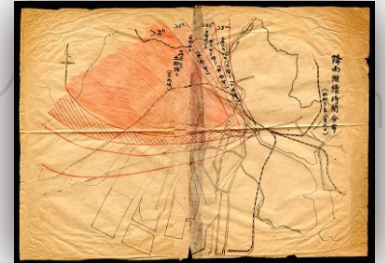
原子爆弾が投下された年の昭和20年9月、当時の中央气象台（現在の気象庁）の指示により、气象台職員たちは、独自の原爆被害調査に取り組みました。原子爆弾により大きな被害を受けた街を歩きまわり、聞き取り調査を行うことは、語る側の口も重たくなりがちで、聞く側にとってもつらい仕事でした。これらの結果は、後に原子爆弾被害調査報告としてまとめられ、現在、私たちが原爆被害について知ることのできる貴重な資料となっています。



手書きの調査メモ
气象台職員の聞き取り調査は、現在の広島市の郊外や市外にまで及びました。



爆発後の風の様子の図
原子爆弾の爆発により発生した火災が引き起こした風や、旋風の様子が記されています。



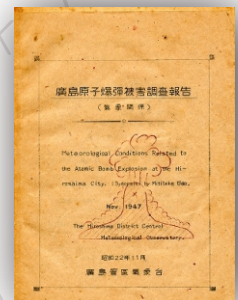
雨の継続時間の図
火災によって上昇気流が発生し、積乱雲へと発達した雲は雨を降らせました。



降下物の様子の図
爆発や火災による旋風により、様々なものが上空へと巻き上げられたことが記されています。



雨の範囲と飛散物の方向の図
雨は、広島市内から北西方向に広がり、飛散物も同様に、その多くが北西方向に集中している様子が記されています。



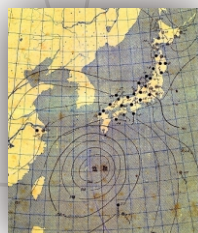
広島原爆被害調査報告
地道な調査をまとめた報告書には、気象の専門家から見た原子爆弾被害の状況が、詳細に記されています。

※当時の被害調査のうち、原子爆弾による黒い雨の降雨範囲については、原爆症の認定や、被爆者援護の分野において様々な問題点が指摘されています。ここで紹介する内容につきましては、原爆被害の調査に取り組んだ气象台職員について、歴史的事実を紹介するためのものです。みなさまのご理解をお願いいたします。

もうひとつの原子爆弾災害

もうひとつ、忘れてはならない出来事があります。昭和20年9月に広島を襲った枕崎台風は、広島での最低気圧721.5mmHg（961.7hPa）、最大瞬間風速は30.2mを記録し、原子爆弾で大きな被害を受けた広島では、通信機能の復旧が間に合わず、气象台は市民に台風の接近を伝えることができませんでした。

そのため、この台風による全国の死者行方不明者約3,700人のうち、約2,000人が広島県内の犠牲者という、甚大な被害となっていました。



枕崎台風の天気図
昭和20年9月17日、九州南部に上陸した台風は、その日のうちに、広島を襲い、土砂崩れなどにより、多くの被害を発生させました。

空白の天気図

原子爆弾の投下から枕崎台風の襲来、その後に行われた、气象台職員による原子爆弾被害調査の様子について描かれた小説「空白の天気図」（柳田邦男著）のビデオを上映しています。



※資料によっては常時展示されていないものがございます。ご了承ください。